

マンションにおけるコミュニティ活動の現状分析

（株）長谷工総合研究所（東京都港区、所長・山本 理）では、表題のレポートをまとめました。
 レポートの全文は、2月25日発行の「CRI」3月号に掲載いたします。

近年、安全・安心なまちづくりに大きな注目が集まっていますが、安全・安心なまちづくりはハード面の「安全で快適な環境づくり」とソフト面の「安心して暮らせるコミュニティづくり」によって構成されます。また、コミュニティは防犯対策だけでなく、分譲マンション生活においてもその重要性は高まっています。
 そこで、当研究所では財団法人ハウジングアンドコミュニティ財団と共同で、分譲マンションにおけるコミュニティ活動の現状について、調査・分析を行いました。
 今月号のレポートでは、コミュニティ活動の実態を把握するために実施した管理組合に対するアンケート調査結果の概要を紹介いたします。

【コミュニティ活動の内容】

- マンションにおけるコミュニティ活動の内容をみると、何らかのコミュニティ活動に取り組んでいるマンションは多い。地域コミュニティの一員として取り組んでいる活動は、「夏祭り、運動会、文化祭などの地域イベント」(58.7%)、「登下校時の送迎や同伴、子供110番の家など通学路の安全確保」(37.1%)が多い。
 (()内は当該選択肢を選んだ割合。以下、同じ)
- また、マンション内、居住者を対象にしたコミュニティ活動としては、「資源回収、リサイクルなどの省資源・省エネ活動」(55.4%)、「防災訓練や夜回りなどの自主防災活動」(45.1%)に取り組んでいるマンションが多くなっている。
- また、マンション居住者を対象としたコミュニティ活動は総戸数の規模によって活動のレベル、内容に違いが見られる。総戸数100戸以上のマンションではイベントや資源回収の他に「サークル活動」(21.8%)や「高齢者・障害者の健康維持や生活支援」(13.6%)等の取り組みを行っているマンションもあり、コミュニティ活動にも幅と厚みがある。
- また、「サークル活動を行っている」と回答したマンションをみると、全てのマンションで「集会場等がある」と回答しており、集会場がサークル活動の拠点となっていることを示している。

【コミュニティ活動に対する評価】

- マンション居住者を対象にしたコミュニティ活動に対する評価は、総戸数規模が大きいほど、集会場等があるマンションほど、コミュニティ活動が活発と評価されている。
- また、マンション内で1つの自治会を設立しているマンションでは、「活発だと思う」(12.8%)、「まあまあ活発だと思う」(37.2%)をあわせて、50%が活発なコミュニティ活動を行っていると評価している。

【地域のコミュニティとの関係】

- 地域のコミュニティとの関係では、マンションのコミュニティ活動が活発であれば、地域のコミュニティとも友好関係を築けている。
- 大規模マンションではマンション内を中心にした閉鎖系のコミュニティに陥ることも懸念されたが、今回のアンケート調査結果をみる限り、その懸念はなかった。

※アンケート調査の概要

調査実施主体：財団法人ハウジングアンドコミュニティ財団
 調査対象地域：首都圏(東京都・神奈川県・埼玉県・千葉県)
 近畿圏(大阪府・京都府・兵庫県・滋賀県・奈良県)
 配布数および回収数：首都圏520部(回収147部 回収率28.3%)、
 近畿圏200部(回収 66部 回収率33.0%)
 調査期間：2007年5～6月

